



「県民主役とくしま」づくり推進事業

①スジアオノリ漁

②シオマネキ

吉野川河口のワイズユース(賢明な利用)を考える学習会

ラムサール条約入門 ～潮の香と命の詩～ 吉野川が育むスジアオノリとシオマネキ

日時: **3月22日** 日 13:00～17:00

会場: **エコみらいとくしま**
(徳島サステナブル社会推進センター)1階会議室
徳島市西新浜町2丁目3-102 TEL 088-678-6091

《参加無料／50名》事前申込が必要です

●本学習会には吉野川河口や海の環境に関心がある方はどなたでもご参加できます。

〈プログラム〉

- 映像『「大河の恵み」エピソード1:スジアオノリ物語』初公開
幸田 青滋 さん(吉野川ひがたファンクラブ・フォトグラファー)
- 講演『川と海と空が出会うところー吉野川河口干潟と生きものたちのつながり』
和田 太一 さん(NPO法人南港ウェットランドグループ)
- 講演『私が見た、聞いた吉野川河口域の昭和・平成・令和のさかなの消長』
上田 幸男 さん(吉備国際大学)
- 意見交換会



④青ガニ



③スジアオノリ漁



⑤スジアオノリ



⑥トビハゼ

写真/①③④⑤ 幸田 青滋、②⑥ 和田 太一

[講師プロフィール]

- 幸田 青滋(こうだ せいじ)
1952年辰年生まれ、獅子座、A型、日本自然保護協会 自然観察指導員、徳島県環境アドバイザー
- 和田 太一(わだ たいち)
中学生の頃から、野鳥観察を始め、淀川や南港野鳥園で干潟のシギ・チドリ類の観察に没頭する。それらの餌となる底生生物にも興味を持ち、吉野川をはじめとする全国140か所以上の干潟の調査を行ってきた。
- 上田 幸男(うえた ゆきお)
三重大学、徳島県水産試験場、西海区水産研究所で水産の研究に携わる。特にアオリイカ、ハモ、タチウオ、アジアカエビなどは35年ほど生態から食べるところまで幅広い研究を続けている。

主催:とくしま自然観察の会
<https://shiomaneki.net>

申込み・問い合わせ/
E-mail: kansatsunokai@gmail.com
Tel・Fax 088-623-6783

▶申込みフォーマット
<https://forms.gle/JRv3R4dskPqU8ZvD8>

▶申込みQRコード



※本イベントは「徳島環境サステナブルネットワーク」の助成をうけて実施します。

「四国三郎」として全国にその名を知られる大河・吉野川。川からの淡水と海水が混じり合う河口の汽水域は、日本最大級の規模を誇っています。ここでは、さまざまな生きものたちが元気に暮らしており、生物多様性に富み、高い生物生産性を持つ独特の生態系が育まれています。流域に住む人々も、吉野川の恵みを上手に生活や文化に取り入れてきた歴史があります。そして、現在も、シオマネキなど絶滅が心配される生きものたちが当たり前のように見られる河口の干潟が残っています。これは、吉野川の自然が健全に保たれ、多くの命が育まれている証拠です。

干潟などの「湿地」を保護するラムサール条約では、地域の人々の暮らしと自然保護のバランスを考えながら、湿地の恵みを持続的に活用する「ワイズユース(賢明な利用)」という考え方が重視されています。

学習会では、豊かな香りと深い味わいで最高級品とされ、全国一の生産量を誇る吉野川の養殖スジアオノリに注目し、吉野川を愛するフォトグラファーが人々の生産活動を記録した『映像「大河の恵み」エピソード1:スジアオノリ物語』を制作。その動画を上映・鑑賞することで、吉野川のワイズユースについて考える機会とします。

また、25年間も大阪から通い続けて吉野川河口の環境調査を行ってきた干潟の専門家をお招きし、吉野川河口干潟の生きものや自然の魅力について、わかりやすくお話しいただきます。

さらに、昭和33年徳島生まれの水産海洋研究者の先生からは、「昭和・平成・令和のさかなの消長」というテーマで、みんなが知っている魚介類について、①「ほとんど見なくなった」、②「減った」、③「増えた」、④「変わらない」の4つのグループに分けて年表にまとめ、環境変化の理由などをやさしく解説していただきます。

これから、私たちがどのように吉野川の干潟や河口の豊かな自然を守り、未来へ引き継ぎ、共に豊かに暮らしていくのか。その方法について、みなさんと一緒に考えてみませんか。